

情報連絡員報告総括表（令和4年7月分）

三重県中小企業団体中央会
連絡員総数 40名
回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況					
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化			
製 造 業	食 料 品	3	1		1	3		1	3		1	3		2	1	1		4		2	2			4		1	2	1			
	織 維 工 業	2	1			3		2	1			3			3			3		1	2			3		1	2				
	木 材 ・ 木 製 品			1		1				1			1		1			1				1		1				1			
	紙 ・ 紙 加 工 品			2		2		2			1	1				2		2				2		2			1	1			
	印 刷		1			1		1				1			1			1			1			1			1				
	化 学 ・ ゴ ム																														
	窯 業 ・ 土 石 製 品		2	1		3		2	1			2	1		2	1		3			3			3			2	1			
	鉄 鋼 ・ 金 属			1			1		1				1			1		1				1		1				1			
	一 般 機 器	1	1	1	1	2		2	1			2	1			3		3			1	2		3				3			
	電 気 機 器			1			1			1		1				1			1			1		1				1			
	輸 送 機 器		1				1		1			1				1		1				1			1		1				
	そ の 他																														
小 計		6	7	7	2	15	3	10	8	2	2	14	4	2	8	10		19	1	3	9	8		19	1	2	9	9			
非 製 造 業	卸 売 業		2			1	1	1	1			2			1	1		2		X				2			1	1			
	小 売 業	1	3	2		4	2	3	3			2	4		1	5		3	3					6				2	4		
	商 店 街		1				1	1					1		1				1						1			1			
	サ ー ビ ス 業	1	4		X			1	4		1	4		1	3	1		4	1						5			4	1		
	建 設 業		2	2						3	1		2	2		2	2		2				2			3	1		2	2	
	運 輸 業			1						1			1			1			1						1			1			1
	そ の 他		1							1			1			1			1						1			1			1
小 計	2	13	5					5	4	6	13	1	1	12	7	1	9	10		12	8			18	2		11	9			
合 計		8	20	12	2	20	7	16	21	3	3	26	11	3	17	20		31	9	3	9	8		37	3	2	20	18			

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年7月～令和4年7月)

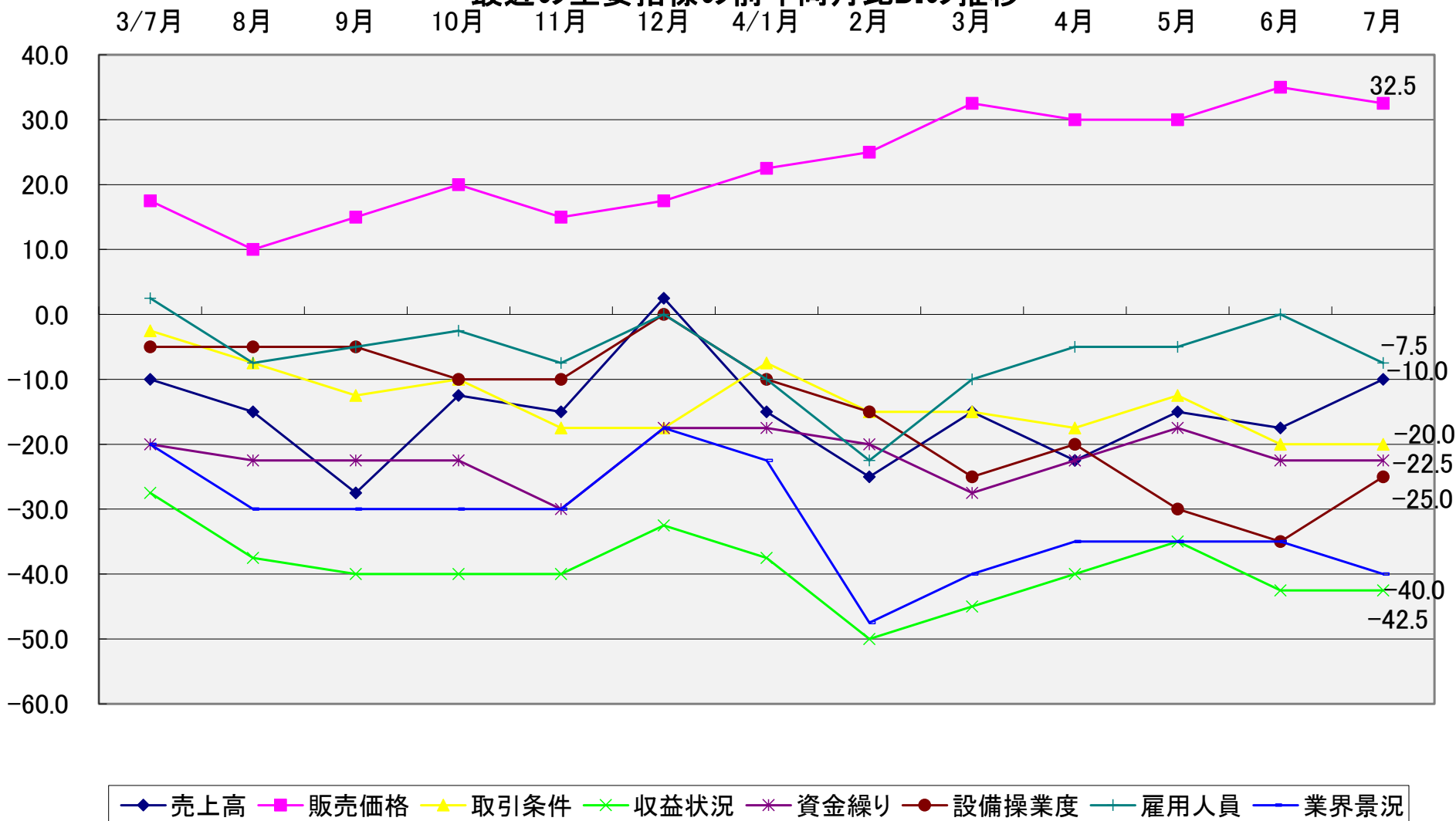
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	7.5
販売価格	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	30.0	30.0	35.0	32.5	-2.5
取引条件	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	0.0
収益状況	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	0.0
資金繰り	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	0.0
設備操業度	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	10.0
雇用人員	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5
業界景況	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年7月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。また販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がやや回復してきた。一方でウクライナ戦争の影響による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ている。組合員からは諸資材の高騰による経費削減の必要性から、組合賦課金の見直しの要望も出てきている。
	醤油味噌	原材料の価格高騰に加え、加工用原材料の仕入れ先である大手食品メーカーからの値上げの通知があった。期日を決めて、一斉値上げを言ってきたが、値上げ幅や時期をずらすなど段階的な値上げを行うよう交渉している。6月下旬の猛暑で梅雨明け発表となったが、7月に入り、雨も多く梅雨に逆戻りしたような天候で、急な雷雨など天候の急変で市場も影響を受け不安定な状況が続いている。夏物商品の需要期に入り、天候の安定した本格的な夏が待たれるが、最近のコロナ感染者数の急激な増加で、観光需要や飲食に期待している事業者は不安を抱えている。
	製麺	7月になり、コロナの第7波が拡大し、夜の飲食店関係が低迷している。また、伊勢神宮、高速道路関係も今月は10%~20%の落ち込みが予想されて、今後不透明な状況である。昨年に比べると、イベントの開催も行われているのが救いである。また、小麦粉、重油、電気の値上げがあり、今後、11月くらいを目途に商品価格の値上げをしなければならない状況で、消費の低迷に危機感を感じる。
繊維工業	テントシート	材料の仕入価格の度重なる値上げにより、製品販売価格も値上げをやむを得ない状況である。
木材・木製品	木材	住宅資材全般の品薄傾向は薄れつつあり、前月比、前年同月比とも弱含み傾向ではある。
紙・紙加工品	紙器段ボール	自動車・電機関係は半導体不足が影響し減産が続いている。猛暑のため、飲料・冷菓部門はいくぶん増加しているが、全体的に生産量は減少である。また、製紙メーカーは9月より段ボール原紙の10~15%の値上げをアナウンスした。原燃料価格や物流経費の増加、急激な円安の進行を理由としている。今年2月に原紙の値上げがあり、段ボールケースの値上げが6月、7月で浸透したばかりであり、年内に2回の値上げはお客様にご理解いただけるか非常に厳しい状況である。
	古紙	7月の仕入れ量は、段ボール：約92円±5%、新聞・チラシ：約93円±6%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約87円±9%と思われる。急激な円高基調から輸出古紙価格の値下げとなり、暴落と言える状況のようである。致命傷となりにくいコロナ感染症の最大の感染波のためか、雨等の気候のためかよくわからないが、集荷量は大きく減少になった印象である。製紙会社からの製紙原料古紙の発注量は、前年並みでほとんど未達状態である。食料品や燃料の高騰は続き、最低賃金31円の上昇、電気代や資材の高騰により苦しい経営である。また、円安であり原紙は輸出ができれば稼働益が出るようであるが、販売価格は高くないようで、国内の販売価格の値上げをするようである。古紙の持ち去りやゴミの置き去り行為も減らず、金属等の輸出価格値下げで古紙の持ち去りが増えそうである。古紙の持ち去り行為禁止の法制化は、良い悪いの判断無しに現状も持ち去り古紙の流通を確認せずに国内流通も可能性がありそうである。現行法が適応できる窃盗を条件付きで認めていただき警察力で行為の禁止と流通の禁止等が出来るようになってほしいが、難しい状況である。
印刷	印刷	先月は、組合活動を慎重に計画中と報告したが、コロナ感染の急拡大により支部の勉強会の延期や親睦事業の中止等なかなか思うように活動ができない状況が今年も続いている。いくつかの原材料は、今年2回目の値上げとなっている。2度の価格転嫁は非常に厳しい。
窯業・土石製品	伊賀焼	コロナ感染者の増加に伴い、少しずつではあるが来客のキャンセル、減少が見られてきている。秋に向けてのイベントなど、また先の見えない状況になってきている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は6月とほぼ同様であった。自動車関連は少し回復傾向にはあったが若干の伸びにとどまった。また、操業度はコロナ感染の再拡大により落ち込みが見られた。建築関連部品は横ばい、ガス関連部品も横ばいの状態であった。ウクライナ情勢の長期化により、原油価格の高騰、原材料（特に金属類）の高騰は依然続き、収益面は厳しい状況が続いている。
一般機器	四日市	実状、業況はコロナ第7波の影響が始め、人手不足に拍車をかけている。半導体不足や長期化する紛争や急激な円安による材料不足、特に仕入価格の上昇などで引き続き企業経営に悪影響が出ている。
	津市	昨年に比べると売上は増加したが、材料の仕入値が上がったための増加であり、昨年の単価にすると同じくらいとなる。材料高騰分は売上単価に反映されるが、光熱費や燃料費の上昇分は反映できないので、その分は収益悪化となった。再びコロナウイルス感染者が増えてきているため、先行きがなかなか見通せない状況である。

製
造
業

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年7月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
	伊勢	ロシアとウクライナの戦争が長期化し、欧米日のロシアへの経済制裁の影響も出てくる中で、コロナの感染拡大で中国のロックダウンがあり、半導体をはじめ部品の不足、モノの値上がりで売上は減少している。販売価格の値上げは認められているが、収益状況は悪化し、業界全体として下降してきている。	
	電気機器	鳥羽	受発注は前年同月対比10%ダウン状況で推移している。厳しい時期、コロナ感染者が増え、従業員の家族なども感染者や濃厚接触者が出始め、生産工程を見直す場面もある。
	輸送機器	鈴鹿	この1年あまり、メーカーからの当初の内示数、計画数は多いものの、直前になってカットされるということが度々あり、効率的で安定した生産体制が組めないでいる。8月も夏季休暇の前倒しや延長などで生産調整をするメーカーがあり、予定している下期での挽回計画も絵空事のように感じられる。
非製造業	小売業	青果	(野菜前半) 全体的に荷動きが鈍いが、ほうれん草・小松菜は高温の影響で値上がり、玉葱は兵庫県などの入荷が順調で平年並みの価格に、ジャガイモは消費が鈍り値下がり、長野産レタスは生育が順調で入荷が増え安い。 (野菜後半) トマトは三重・愛知・岐阜の3県からの入荷が安定しておりお買い得になりそうである。群馬・長野産のキャベツが値下がり、レタスもお買い得である。 (果物前半) モモ・デラウェア等が高温の影響で入荷が不安定、石川産スイカの出荷がピーク、愛知産ハウスみかんの贈答用が人気、味も最高である。 (果物後半) メロン類は糖度が高くなる時期で山形・青森など東北の産地からの入荷である。スイカは長野・山形から順調に入荷、地場産の幸水も来週にかけて味がピーク、今年は適度に雨もあり食感・糖度ともに上々の出来である。
		自転車	物価の上昇は、インフラ関係までにも及び、家計への負担が増すとともに個人消費の減少となった。中旬は長雨も重なり、自転車の購入及び修理の来店客も各ショップ少なかったようである。また、円安による輸入物価高が追い打ちをかけるなど、景気回復の先行きは多くの懸念材料を抱えている。コロナ禍におけるネット通販で購入する商品(価格が安い、自宅に届く)が増える中、未完成の自転車を消費者が自分で組み立てたが乗り始めて不具合が生じた、組み立てたが上手くいかないからと販売業者に連絡したところ、「近くのお店で見てもらってほしい」と言われ店に持ち込んできた等、多くの事例が寄せられた。今後このような問題にどのように対処していくか検討していく必要を感じている。
		電器	梅雨が明けての猛暑が始まり、我々の業界としてはエアコン、空調関連が動き出した。例年と比べると、メーカーの商品が品薄なことと仕入れの価格が高騰しているところから、例年のように売れながら利益を出している動きと言えるのかどうかは微妙である。ただ、人の動きも多くなり経済の動きが出て、他の家電製品全般的にも動きは出てきたので、商品が手に入れやすくなってほしい。
		石油	「令和5年度国・県の政策と予算」に関する要望書を下記のとおり提出する。 (項目のみ) ①SS業界特別支援予算確保に向けた要望 ②合成燃料を「2035年乗用車電動化100%」の選択肢として追加要望 ③災害協定と官公需の連携強化に向けた取組の要望
サービス業	商店街	熊野市	全国的に規制のない夏を迎えたが、徐々に感染者数が増加し、各方面で影響が出始めている。今回休業補償の無い飲食店等は相当厳しい状況のようである。今後は感染症分類の変更を考えていかなくは、繰り返しこの状況を作り出してしまおうのでは、と感じる。
	警備	旅館	7月は3連休から夏休みにかけて、どこも満館近い繁忙期だが、今年は感染拡大が進行している現状、県は行動制限を発出せず「県民割」も中止せず、後押しをいただいていることに感謝している。組合員一同は感染防止対策を引き続き徹底することに取り組んでいく。業績は「GoToトラベル」が無かった昨年と同じくらい、2019年の7月とは50%~60%くらいであった。
		警備	コロナの影響で3年間イベント等が中止になったままなので、受注は以前と同じように減少したままである。
建設業	内装工事業	前年同月比で少しマイナスとなった。コロナや円安の悪い影響があり、今後どうなるのか予測が難しい。	
	水道工事業(亀山)	資材等入手困難な状況が続く、先行きが不安定な状況が続いている。	

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和4年7月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
運輸業	トラック	軽油価格は先月一旦上昇に転じたが、7月に入り値下がりしたが依然として燃料価格は高騰しており経営を圧迫している。コロナ禍による部材等の供給不足や度重なる中国でのロックダウンの影響を受け電子デバイス部門は足踏み状態となっており、輸送についてもその影響を受けた。また、自動車関連については半導体や部品不足に加え、一部仕入先でコロナ感染者が出たことにより一部工場ラインを停止せざるを得なくなったことから輸送についてもその影響を受けることになった。スーパー小売部門についても消費者物価上昇の影響で減少傾向が続いたことから輸送についてもその影響を受けた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	県の補助事業を活用していけるようにして行く。また、新しい取り組みを積極的に行っていけるようにする。
一般機器	四日市	コロナの影響が再び現れ始めている。一部大企業の設備投資が上向きとなってきたが、中小製造業にその好影響が及んでいるのはごく一部であり、長期化している海外の紛争や円安により、物価、原価が上昇し続けても販売価格に転嫁できず、資材の納期長期化により稼働が停滞したり資金繰りが悪化する企業も多くみられる。そういった現状の把握ときめ細やかな支援を希望する。
小売業	石油	「令和5年度国・県の政策と予算」に関しての要望書を下記のとおり提出する。 (項目のみ) ①SS業界特別支援予算確保に向けた要望 ②合成燃料を「2035年乗用車電動化100%」の選択肢として追加要望 ③災害協定と官公需の連携強化に向けた取組の要望
サービス業	旅館	売上が通常年の50~60%程度で3年間経過しているが、経営を維持してゆくことは困難である。セーフティネット関連の融資も9月分で終了することもあり、これらの延長と、さらに新しい融資制度、信用保証協会融資枠の拡大等、早急に対応いただくことを要望する。